

ターゲット 令和4年度 公立高校入試 vol.1

新傾向問題 発見。  
解答方法のポイント...確認 OK。  
令和3年度 公立高校入試 数学&英語 分析完了。  
視界 クリア!!

令和4年度 公立高校入試

LOCK ON

vol.1  
数学・英語

高橋義昭 著  
KATEKYO 柏崎  
0257-21-4455



# 数 学

## 1. 概要

令和2年度までは大問数6問での出題でしたが、令和3年度は大問数5問での出題になりました。

昨年度までは、

- [1] 小問集合
- [2] 連立方程式文章題、確率・X軸・Y軸・直線グラフ・放物線の見えている関数の問題、コンパスと定規を用いた作図問題等の教科書レベルの応用問題、
- [3] 図形の証明問題
- [4] グラフの形の見えていない一次関数の応用問題、
- [5] 規則性の問題、
- [6] 空間図形の問題

という出題形式でしたが、令和3年度では大問数5問での出題となりました。

今年度の変更点としては昨年度まで大問[3]で出題されていた図形の証明問題が大問[5]に組み込まれる形になり、大問[5]で出題されていた規則性に関する問題の出題が無くなりました。

昨年度同様に大問[2]以降、**解答用紙に「求め方」を書く欄が大きく取られ、正答出来る事が理想ではありませんが、解答に至るプロセスをいかに「文章化」出来るかが重要視されていると感じました。**

大問数は6問から5問に減りましたが、**問題用紙は昨年度までの6ページから7ページの構成になり、体感的に「問題数が減った」と言うよりも「問題数が増えた」と感じた受験生が多かった**ようです。

## 2. 出題傾向・分析

### **大問[1]** 小問集合（計算、関数、図形、資料の活用）

小問数が10問から8問になり、それに伴って小問の配点が各3点から各4点に変更になりました。内容は例年通りの計算の小問集合と簡単な比例式、角度を求める問題、資料の整理の問題でした。先ほど述べた通り、**問題数は減りましたが、1問あたりの配点が上がった**ため、令和2年度の各3点×10問＝合計30点の配点から令和3年度は**各4点×8問＝32点の配点**になりました。

### **大問[2]** 連続する2つの自然数、確率、定規とコンパスを用いた作図

小問数が4問から3問になり、配点が令和2年度の4点×4＝16点から、令和3年度は6点×2＋5点＝17点となり、**大問[2]同様に1問あたりの配点が高くなっています。**

大問[2]で毎年出題されていた連立方程式の文章題の出題が無くなりました（大問[1]の小問集合でも連立方程式の出題はありませんでした）。コンパスと定規を使った作図問題は今年も出題されました。

解答用紙に「求め方」の欄が大きく取られており、**解答だけではなく、それに至る過程もしっかり書く**必要があります。

なお、**大問[1][2]は問題の難易度は教科書レベルですが、合わせて全体のほぼ5割弱の配点**ですので、ここでしっかり得点しておきたいところです。

### **大問[3]** 一次関数の応用

昨年度までの図形の証明問題が無くなり、昨年度まで大問[3]で出題されていた一次関数の問題がこちらで出題されました。

昨年度のような一見すると**関数の問題に見え難い問題ではなく、実生活に即した問題**でした。グラフも目に見える形で与えられていました。関数の大問では平28年度以降問題に関するグラフは図示される事はありませんでしたが、今年度はグラフの形が見えているため増加量のイメージはしやすかったですが、与えられた**問題文、イラストの情報と組み合わせて理解、処理する必要**がありました。